

真岡市
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等の ICT 環境を活用して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとともに、主体的・対話的で深い学びがより達成できるよう授業改善に取り組むことで、児童生徒自身が学習形態や学習方法を選択し、自分自身の特性や理解度、進度に合わせ自律的に学ぶような、児童生徒を中心となつた学びの姿を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

本市では、平成30年からGIGA第1期に先駆けてICTを活用した学校教育の推進を進めてきた結果、ICT活用のイメージをもってGIGA第1期をスタートできた。電子黒板、指導者用端末の活用は日常化しており、ICT教育推進校・重点校事業により全小・中学校がICTを活用した授業を公開したことでの好事例が共有された。ICT支援員が全校に配置され、ICT活用を推進しており、教員は授業でデジタルとアナログをバランスよく取り入れている。

一方、課題としては、学校間、教員間で、授業での端末利活用に差があることや、学校の授業と関連付けた家庭での端末利活用、ICTを活用した更なる授業改善等が挙げられる。

3. 1人1台端末の利活用方策

途切れなく端末を利活用できるよう、共同調達により計画的に端末を整備・更新し、ICT環境を維持した上で、以下の点に取り組む。

(端末の積極的活用)

- ・端末の日常的な利活用に係るICT研修、事例共有の充実を図りながら、ICT支援員と連携して端末の利活用を推進し、「教育DXに係る当面のKPI」の「1人1台端末を週3回以上活用する学校の率」に示されている目標値を目指していく。

(個別最適・協働的な学びの充実)

- ・リーディングDXスクール事業を始めとした端末利活用事例の周知及び市内教員によるICT教育研究会と連携した授業研究等を行い、「教育DXに係る当面のKPI」の「個別最適・協働的な学びの充実」に示されている目標値を目指していく。

(学びの保障)

- ・「教育DXに係る当面のKPI」に示された、希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会の提供、希望する児童生徒への端末を活用した教育相談、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援等、端末を活用した学びの保障について、オンライン配信やアプリの活用など具体的な方法について検討していく。